

Centimetres

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



俊寛島物語
四之巻

遠 13
1904
三六



1304
5

俊寛僧都嶋物語卷之四

東都



曲亭馬琴編次

第九套

抱袖没海と

鶴前安子か事

餓しるりのハ食を擇まど。渴するりのハ飲をえりまど。窮するりのハ妻
 を擇まど。逃るりのハ道とえりまど。却説黒居蛭王ハ安子と
 共ニ鶴の前徳壽九を扶掖を。宇治の危難を脱まど。河原ハ
 深みとまど。夜ハ伏見の里波の渡をうちまど。その曠昏佐太返来ま
 だ。かくと村稍盡る。白屋ハ宿を投め。その夜夫婦密中り。
 久後のりハ相緒る。蛭王ハいハ。案の前ハ清盛入道ハ寵臣
 なる。難波三郎経房を怒り。自教ハひらふ。基安そのハ首
 級を給る。必入道の怒甚く。姫君彌君を捕

俊寛僧都嶋物語卷之四

速く追兵を向らぶ。あんなに遠くを寺谷へも
及入る。所詮夫人の遺言に随ひ、徳壽丸の供
へ。鬼畏鳴へ赴くべし。鶴の前より大ふと。と
前のあしを。薩摩方まで。あんなに遠くを寺谷へも
姫君の供へ。故々。越の水江に到る。待たせぬ。
主君を綱を。暇なく。一ト。音耗せむ。
久く又物を。彼水江に。法勝寺の所領する。一
憚ると。又由猪。坐す。今も。外に。憑心
樹の下より。年を老ぬ。家尊の親三郎。志信。心
頼く。憑心。ひる。寺谷。安良子。信
三年。前。世。又。安良子。

これを。宜し。忠義の。此
か。信。見。阿翁を。牙の
る。鬼。鶴の前。僧都。彼首。い
か。世。女子。外。出。人
る。薩摩方。下。千。悔。い
日。過。六。波羅。の。兵士。追。鶴へ
る。同胞。捕。千。悔。い
る。安良子。既。鶴の前。決
合。姫君。鶴の前。決

外。ふがの夜由。もろのど。やうや。又目を神拭ひ。世女子をうり。形
 うらめしののり。母。前。うらめしの。ひぬを。哀を。慕ひ。なれど。生
 死道を異よ。とるれ。の。うら。と。心。由。結。め。や。千里の外。うら
 う。あ。ろ。月。日。の下。よ。在。と。夢。の。配。所。へ。え。由。ゆ。れ。ぬ。その。悲。し。こ。の
 亡。母。を。慕。ふ。あ。の。い。や。う。と。存。命。づ。う。の。心。い。ぬ。ど。う。か。身。ゆ。え。よ。う。え。
 捕。捕。る。り。や。と。取。と。る。か。う。ら。う。と。由。小。伴。へ。え。い。ひ。か。は。翅。る。を。牙。を
 うら。歎。く。鳥。迹。う。ら。と。由。め。ゆ。い。と。う。と。夢。の。安。否。を。問。せ。よ。は。この。嫌
 の。中。せ。う。の。死。よ。う。何。心。い。忘。ま。か。た。ぬ。の。牛。若。川。曹。司。の。り。う。う。は。隔。案
 の。夏。鹿。谷。の。山。莊。あ。く。別。進。ま。う。う。う。後。の。家。艱。み。牙。を。お。れ。う。秘。と。
 音。耗。ゆ。せ。ど。音。耗。と。ふ。の。の。づ。う。の。隱。家。を。と。と。う。一。侍。う。ぬ。友。と。心。
 恨。を。な。る。や。う。ゆ。め。ら。ど。三。年。が。経。ぬ。り。来。ん。と。宣。下。又。偽。た。く

と。ゆ。ひ。ん。う。の。に。岡。山。の。旅。人。う。う。ぬ。旅。寐。あ。ゆ。の。れ。親。う。死。な。し
 の。れ。バ。使。お。ん。君。あ。う。え。の。う。れ。う。遠。離。る。過。世。い。う。う。悪。業。ぞ。う。死
 口。獲。つ。は。多。く。徳。壽。九。の。女。兄。君。の。歎。う。ぬ。い。と。あ。ひ。や。り。後。ゆ。め。ぬ
 袖。の。う。う。宿。ま。る。月。由。旅。の。そ。う。い。う。悲。し。と。む。い。や。う。ぬ。當。下。蚊
 正。の。安。良。子。と。ゆ。あ。れ。を。慰。め。う。う。と。や。う。姫。君。の。お。ん。歎。可。理
 中。由。過。え。ん。ど。ゆ。く。づ。死。を。あ。ら。む。と。あ。ひ。さ。や。う。あ。の。の。考。う。り。且。牛
 若。丸。の。り。日。来。の。明。白。よ。い。ひ。ゆ。あ。の。ね。と。暮。し。く。お。悔。ま。る。年。老。の。母
 何。前。由。猜。し。あ。ひ。く。いと。痛。し。と。う。安。良。子。あ。の。宣。下。せ。り。ゆ。ゆ。ひ。さ。
 只。後。や。う。時。を。待。り。縁。し。う。う。竭。あ。の。心。の。再。會。の。期。う。う。ん。や
 待。り。び。し。死。を。俟。り。あ。の。是。負。う。り。歩。ふ。り。裁。前。へ。赴。せ。ゆ。か。順。路
 う。れ。と。世。を。潜。り。旅。あ。の。水。行。を。便。ゆ。め。浪。速。津。の。福。原。へ。程

遠くよりぞ。便宜の地より。丹後の経の岬に到り。西國へ由。越後へ由。出船り。船のり。いづれ。あつれば。今一兩日。か程。なり。彼港口。より。安良子をおく。水舟を。越前へ。卦さ。ぬり。其の。知。より。彌君の。おん。供。より。西國。船。より。便。秘。し。直。より。薩。摩。亦。より。到。り。て。鬼。鬼。嶋。に。推。渡。り。時。宜。より。僧。都。を。竊。り。進。せ。便宜の地。より。潛。を。せ。る。べ。く。お。り。ひ。ゆ。へ。ば。い。え。く。中。對。面。の。町。の。へ。せ。め。ら。れ。ど。と。る。い。お。も。れ。そ。と。ち。う。よ。ふ。安良子。も。又。さ。ま。ぐ。よ。い。ひ。慰。め。更。團。と。れ。と。嬾。を。旅。の。宿。み。の。ゆ。ゆ。と。ま。め。ら。れ。鬼。鬼。嶋。へ。進。せ。る。消。息。の。そ。か。し。ゆ。と。く。孤。燈。を。そ。ろ。ろ。之。川。向。止。ば。鶴。の。前。へ。い。と。痛。く。う。ら。泣。く。や。う。や。う。頭。を。搥。落。る。涙。を。墨。斗。より。け。く。お。ひ。ぬ。つ。嚙。締。る。筆。の。運。び。の。際。毎。に。窓。より。風。の。吹。入。し。く。手。り。と。暗。

燈と共。消え。命。も。と。も。身。も。あ。る。や。あ。少。紙。も。湿。り。か。ら。る。袖。の。雨。降。を。真。菅。の。叢。虫。の。鬼。の。子。ら。く。て。鬼。畏。る。ら。し。と。啼。つ。と。と。さ。木。の。枯。れ。時。の。言。の。葉。さ。か。ら。み。あ。り。つ。卷。を。と。れ。徳。壽。丸。を。い。え。ア。ま。く。や。徳。壽。を。さ。さ。る。嶋。に。到。り。ば。あ。の。書。簡。を。奪。り。進。せ。せ。る。由。め。く。も。ら。ら。へ。く。竊。り。ぬ。り。扶。桑。の。條。に。を。ぬ。り。ぬ。り。角。賀。乃。浦。に。綱。引。し。く。う。ら。の。海。人。と。舟。を。は。る。を。と。る。ゆ。め。ら。の。山。の。名。も。負。て。親。子。の。り。り。も。世。を。ま。り。た。生。る。う。ひ。の。鯧。江。の。郷。を。さ。の。の。風。の。ふ。く。井。中。も。か。て。を。帰。る。山。嵐。渡。海。安。全。を。祈。り。け。る。ぬ。れ。ゆ。め。ら。せ。り。水。菫。の。水。江。の。庄。に。結。ぶ。る。蛸。か。歎。を。ぞ。ろ。ろ。と。ま。ま。く。よ。ま。ま。生。口。ぬ。ひ。ね。と。く。一。封。を。編。み。ぬ。り。徳。壽。丸。を。受。け。り。ゆ。め。ら。の。安。く。息。女。兒。の。前。別。とい。ゆ。由。雲。裳。時。か。程。多。り。ぬ。ゆ。り。よ。物。を。思。ひ。け。く。病。を。

了つとひあふふ。と只一言は同胞の滅らるる別離の悲を蟻王由安
 良子も感涙を押しね孝の深く在る神由併由憐れとて予を
 果さうあふべし。その年春の嶺を昔がうりよるうりの。なううとぞ
 やりと慰まど。その身よあひらう馬る。そのめをととえ乾由のぬ袂を
 きて分ちら。ゆら名残も惜まれ。主後終は被つと。わく鶏
 明曉を告よれば。さきりらと由。佐太の旅宿を出。津國を
 過り石馬山伊奈の篠原ふく風由追兵と驚ま。とと果がうれ
 清水の里より山陰道へととけ入り。兩三宿あし。宮津の浦曲
 まを来より。跡をゆくら。忙しければ。春の日あがら。短くおえ
 て亦あつらりふらふ中暮ら。天より結陰。如法園夜を云細く
 由徑の岬のいづら行くと。彼此あて問つ。わけは。磯洲松の母より。

漁火焼く。人野團坐せり。そのめのも。件の主後をほくぐと
 目送る。一人がけり。這奴ホカ模様平人よ。あつと。且夜をこめて。
 連忙しく走る。今朝驛家の長より。合られ。若人鬼鬼崎の
 流人俊寛僧都とや。人子どもあつ。汝ホのうく。えびや。年の
 齢も相慮せり。といふ。さよ集合る。海船の備舵。羊侠羊賊
 の思提るれば。さよあつ。とらら。改ら。追蒐て搦捕り。
 過分の賞残。あつと。と散動。手より。櫓械郵割の庖丁。多を
 を引提。あつ。蕉火より。追入程。二二町。週ど
 しく。忽地は。著ら。當下悪棍ホ。主後四人を。と。罟
 繞る。異口同音。や。俣旅宿。いぬ。日宇治。六波羅の侍
 難波の某を殺。西を投。走る。俊寛とや。人子ども。



宮津の浦
夫婦
仇を標ぐ

伊賀巻之四

五

捕るりのち。野の賞賤をとりつらん。と令られし。當は汝木か
 りのるる。頃日ハ日和のて。酒由酔後ハ其奥むよれ鳥こそ
 罹ふ多き。そと縛を受ふ。とぞ鳴りりる。蟻王をこれを咬て此も
 騒かむ。そのあひよりけぬるをきくものなる。昔侍ハ願あり。切
 戸の文珠へ詣るりのり。此ハ誤る。後悔をみ。とりせよめいぞ吐
 と打笑ひ。盗人猛勇くく。人を怕む。言を巧み。陳むれ
 と由少婦と孩兒が面影。この骨相書よ。一息ふのむ。楽うら
 倒せ。罵りのひく。擗械をうち振競り。其ハ蟻王奮然と大に
 怒り。交又く柱る程。又安良子由又唯依の懐劍を閃く。夫と
 ろの款を防ぎ。投つくる蕉火を切拂ひ。跳るえ火を散し。そ
 戦ふ。蟻王元來一人當千の壯士。つれハ西を撃て。東を靡。

瞬間は兩三人を矢度ハ破り。兩段と。その隙に。悪棍
 徳壽丸を小腕に抱き。飛び去る。蟻王吐嗟と奮然
 と。引留んとする。後方より。頭の上より。械を潜く。打落し。怯む
 ところを礮と破。倒る屍を飛せえ。喘を追ふ。残心も
 頼の悪棍ども。その友撃つ。を物ともせむ。母蟻王を遣ふ。と進
 出を安良子立塞く。遼笛め。男子は勝る奮怒。突戦。命を惜
 ずむ。批とのひ。四人を敵。一歩ハ退む。三人は深瘡を負ふ。
 一人を砍伏せし。あられどもその牙。巖石より。肩矢二の
 腕。数箇。の痠。流る鮮血を吸く。咽喉を潤す。あ一人か
 背より。鬚。心で。砍著く。刀を引。仰さす。刀が。身由と。又腰縛
 を。残る。兩人。左右より。よろほひ。つか。撈り。刺んと。ある。

刀を携り。忽ち又を起し二合三合うちめり。やと声うけり
 見と又の下より二つの首の遙く飛ぶ撲地と落今に柱る款も
 のは。と云ふよいと。牙の疲勞。ふらび轉る地等も頸も兒軀由
 忽ちと左辺右辺を倒さる。めり。鶴の前の松の樹蔭
 より走り出く。安良子を抱き起し。燃あさるる蕉火より先
 へ滅るん家の牙の家をくくも夜よと淡とさめふゆひ活るお
 へ。俄頃よ吹とる。法螺貝の音耳あや入るん。安良子の信と
 姫君をええり。めり。急うく中を。吹彌君のこの心りと
 ろ。戦王ハちごなり侍らばや。結わせんあ由律急うり。かの法
 螺の音ハ彼此あや。人を集る暗号とあや。うねく大勢イ、
 困る。ゾホ。脱とめり。誘り。どのを。向り姫を扶

披さ。今ハその肩よ。めり。れ。あ。さ。り。公。苦。む。収。抱。も
 血刀由皆逆さる。突立とやを。牙を起し。浪ら際又安さる。り。
 安良子声をあうま。これハ水鏡を。越のう。へ。卦く。旅人。あ。か。
 引剥ホ。叔と。伴る。男。は。後。と。難。美。る。り。夜。細。換。音。は。
 ち。ふ。船。を。め。と。呼。れ。ば。鳥。夜。も。由。仲。津。あ。は。使。り。け。く。友。味。は。
 鶴の声り。あ。と。も。ふ。を。い。と。夜。と。僧。も。る。夫。婦。棒。の。漁。撞。ハ。憂。
 牙。は。列。一。腰。簾。の。越。越。へ。飯。る。雁。が。喜。る。り。で。妻。が。操。る。櫓。拍。子。は。
 夫。が。丰。稜。網。の。目。は。さ。り。見。え。り。ぬ。團。夜。ハ。声。を。あ。さ。り。又。船。を。つ。け。
 ち。と。呼。び。り。つ。夫。ハ。猿。臂。を。伸。ち。鶴。の。前。を。扶。系。さ。る。ふ。
 衣服の手ざり。早。さ。り。さ。り。あ。は。く。搔。撫。く。莞。尔。と。天。と。又。
 安良子を扶系さる。又。衣服。は。さ。り。鮮。血。を。咽。く。さ。り。竊。り

らち驚き。船を沖へと漕ぎどけり。その妻よりも。福原入道

借盛。も。つくりし。と。嚴嶋詣と。船は白魚の飛入りし。よ

るを昇進し。ひさ。今夜ま。か。船あ。愛。白魚の入る

ぞ。いと。容止定。う。あ。え。ね。綾の袖の長。か。か。

二ハ。の。美。女子の深。負。乳母

る。と。あ。い。ん。さ。が。廢。あ。衣。服。を。剥。く。骸

沙魚の腹へ葬り。と。擡。ろ。う。襪。播磨の室。ら。へ。賣。と。い。ん。あ。あ。

一色の金へ。易。け。た。び。と。説。ふ。は。呵。と。ら。ち。笑。ふ。安。良。子

のみ。や。と。う。ち。驚。馬。を。天。を。仰。ぎ。と。嘆。息。し。い。つ。み。せ。ん。や。席。の。穴。を。脱。て

毒蛇の罠。入。り。ぬ。ぬ。運。の。さ。ゑ。ハ。歎。く。あ。の。う。る。月。餘。り。原。本。女。由

賊。り。り。り。遮。莫。女子。と。あ。ひ。侮。り。後。悔。を。さ。す。と。い。は。ま。さ。つ。反

る。刀。を。忙。し。く。膝。あ。ご。押。さ。ぬ。伴。の。賊。を。刺。し。と。さ。う。紙。の。く

去。や。と。刀。を。及。り。又。を。下。と。踏。む。と。し。さ。う。嘯。る。自。若。り。安。良

子。ら。の。勇。し。と。り。い。ぬ。数。箇。処。の。深。瘡。を。せ。ん。と。さ。う。齒。を。切。る。怒

の。涙。と。共。に。鮮。血。を。漬。る。苦。痛。の。呼。吸。を。な。す。忍。ぶ。と。鶴。の。前。由

う。う。く。死。を。究。め。い。つ。の。み。ハ。髮。結。の。良。人。を。の。り。の。を。阿。容。と。と

賊。の。手。を。賣。り。と。さ。う。い。つ。て。此。身。を。誰。と。さ。悲。し。を。る。子。親。と。夫。は。再。會

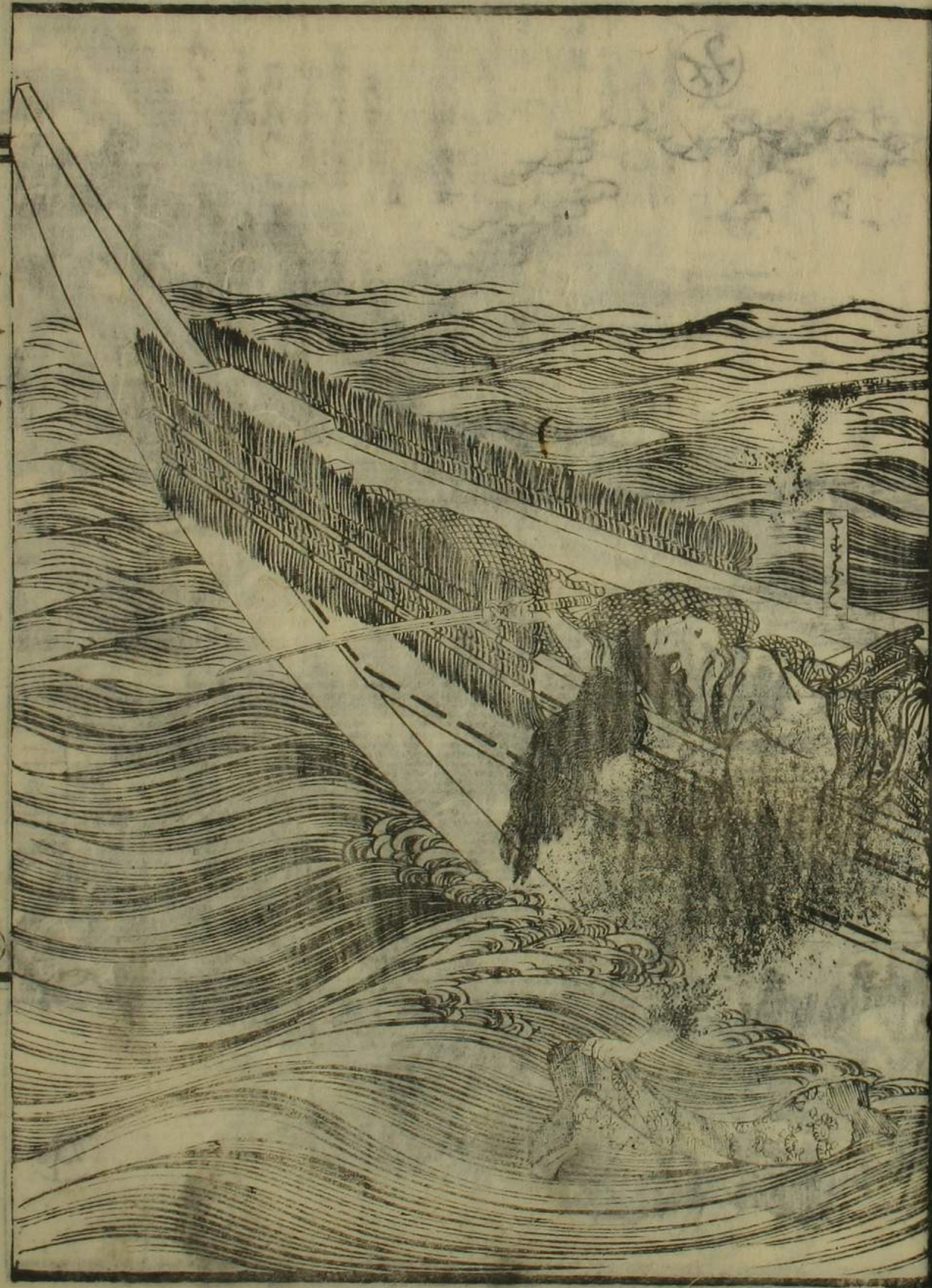
の。事。は。後。つ。又。才。が。生。死。存。亡。を。さ。う。し。し。己。さ。う。と。い。ひ。由。果。此。身

を。跳。り。水。底。へ。投。げ。んと。あ。の。み。を。や。待。身。へ。と。安。良。子。ハ。右。乃

袂。を。引。き。印。を。伴。の。賊。ハ。共。に。投。げ。や。あ。ひ。か。ん。働。然。り。と。た。は

怒。り。左。手。を。伸。け。鶴。の。前。の。左。の。袂。を。替。と。さ。う。か。か。を。抜。て

安。良。子。が。い。ま。え。ら。う。袖。り。ら。と。も。は。臂。を。破。と。破。背。を。い。く。蹴





こゝろん
人いふ
舟流し
天の立
私景武船

竹野郡

天階立

南



水

真謝郡

水

倭国巻之四

後成女

文殊堂

ふさの海

うらうら。隣り。安良子が腕を主の片袖を。脛をうらうら。又と
落。その才由續之。致し。真逆さ。小沈む。鶴の前由。後れ
は。安良子は抱き著。波を被さ。飛入り。人。賊か。た
手より。脛。袂。断離。手。遺。ぬ。忽。泡と
消去。折。海。上。俄。頃。風。起。り。いと。由。烈。荒。波
。船。も。落。抄。の。閃。く。揺。揚。ら。揺。れ。往。方。由。ら。び
う。り。ふ。り。

第十套

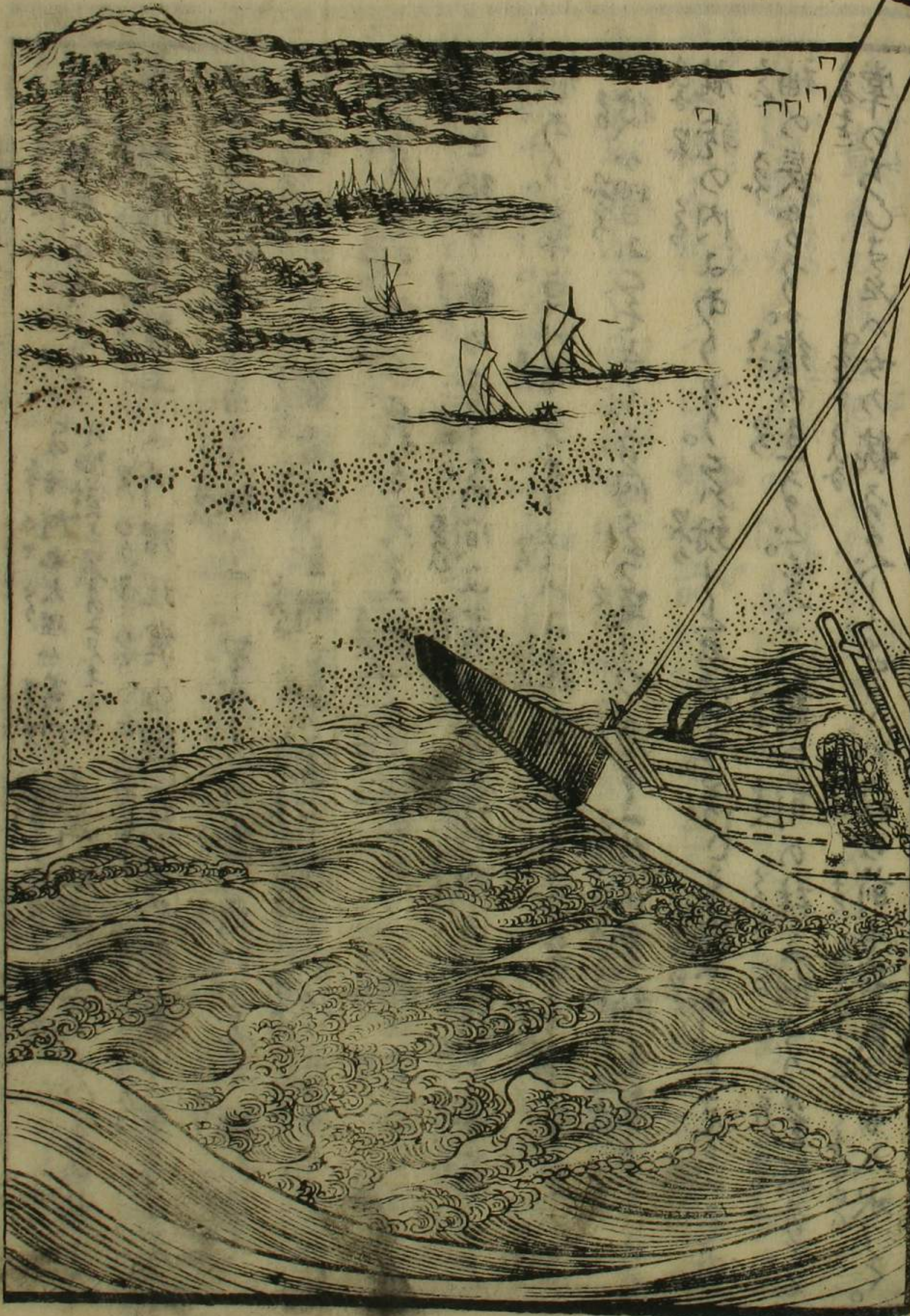
抱膝長歎とい 法勝寺僮かみ

賤王の浦曲よそへ。遊る悪棍を追入。と五六町許あり。終よ
こ。を。破。け。り。才。徳。壽。九。を。脊。負。ひ。つ。舊。の。如。き。り。ぬ。る。ふ。
後。人。け。り。安。良。子。の。警。れ。ん。姫。君。の。竹。如。は。在。ら。る。や。よ

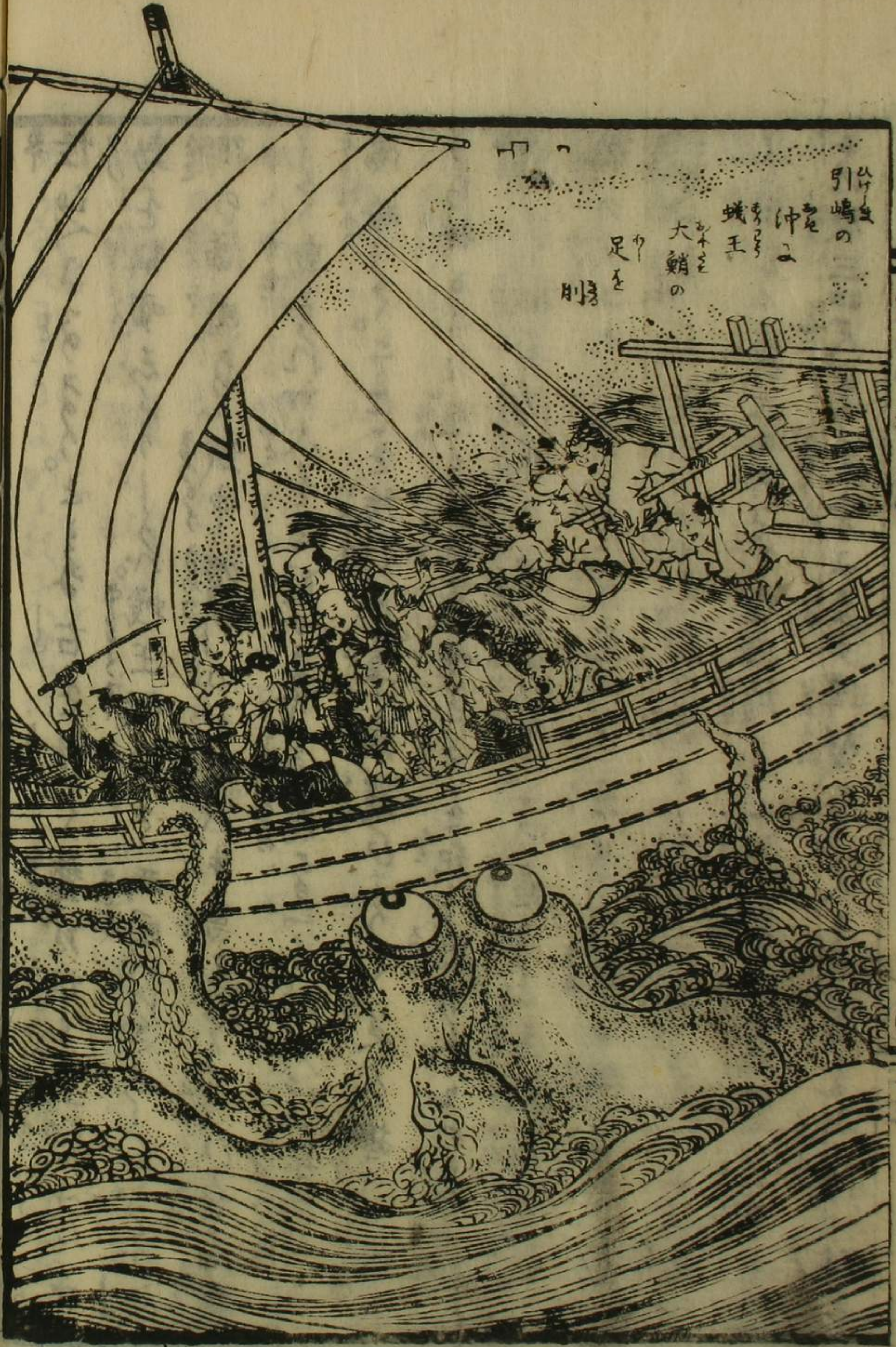
啼く。と呼つたの演うらうら。松風と。浪の音のを。悉し。ん。云
り。と。う。ら。う。り。の。い。ふ。べ。う。ゆ。わ。ら。ぬ。れ。ど。彼。此。人。の。吹。ま。る。法。螺。貝。と。
か。ま。後。を。搦。捕。ん。と。う。ら。う。ら。い。警。と。る。妻。捕。と。の。人。鶴。の
前。の。救。ひ。を。う。ら。う。ら。い。腕。を。解。け。腕。と。を。え。な。す。と。て。い。う。く。彌。君。を。楚
と。負。ひ。圍。と。う。ら。う。ら。い。才。徳。壽。九。の。必。死。を。救。ひ。進。む。ら。い
て。通。宵。路。を。急。ぎ。う。ら。う。ら。い。徳。壽。九。の。必。死。を。救。ひ。進。む。ら。い
と。れ。ど。鶴。の。前。の。往。方。由。定。ま。ら。う。ら。う。ら。い。安。良。子。が。死。せ。り。や。生。ま。り。や
を。あ。ら。む。只。是。の。こ。が。遺。感。と。と。う。ら。う。ら。い。歎。く。は。徳。壽。九。由。お。ぼ。し
歎。き。伏。沈。む。母。口。前。自。殺。し。多。ひ。く。又。い。く。程。多。く。女。兒。君。と。え
囚。徒。と。う。ら。う。ら。い。ゆ。ら。う。ら。い。鬼。界。へ。尋。ね。ぬ。ゆ。く。と。ゆ。夢。ま。り。何。と
あ。ら。う。ら。う。ら。い。その。ゆ。ゆ。ら。う。ら。い。女。兒。君。を。き。り。復。し。と。う。ら。う。ら。い

多ハ。蟻王ありまうがまうと申す。仰理おほせまうみかひへども。蟻王ありまうが身み早はやあす。
 振ふるく救すくひゆゆなるなるべうべう由ゆゆゆと。後捕ごとまま。絡絡引ひままののも。
 婦女子むすめののみみままんん。命いのち又また恙つかハハむむトト。このこのみみ致さささののひひをを。
 西にしをを投なげげててままのの海うみとと。日ひ数かず程ほどありありてて。長門ながと
 赤間関あかまきにに到いたりりぬぬ。主ま後ご便べん船せんとと。九こ別べつへへ卦くわいくく。
 引島ひきしまのの沖おきありあり。そのその改か宿しゆく直ちやく袋ふくろありあり。海うみ大おほききありあり。章魚たこ船ふね
 のの軸じやく先さきはは浮うきき出で。足あしをを眩くらままららちち切きりり。覆くわさんさんととままららしし。
 私人ふじん木き駭おそきき慌あわれれややくく。とと叫こゑがが程ほど。蟻王ありまうののをを引ひ枝えだとと。章
 魚たこのの足あしをを丁ちやうとと砍きるる。足あしももそのそのままにに眩くらままららしし。章魚たこのの波なみの
 底そこにに没もつつ。そのその際さいにに社あまがは人ひとののううららじじとと。船ふねをを漕こ退たいとと。くくもも危あやしし
 なるなる。此こゝよりよりはは。大おほ船ふねののりりとと。いいままはは。夢ゆめ由ゆ傳つたむむ。いいとと

怪あやししききららるる。ととまま古ふるをを根ねとと驚おどろろけけたた。且かつ蟻王ありまうがが拳こぶし
 動うごをを稱なづ嘖いんとと。りりとと。蟻王ありまう微こ笑わらむむ。西にし國くにののいいままにに。故ゆゑ
 御ごのの隣りん國くにありあり。越こ中ちゆう滑くわ川がはのの大おほ船ふねハハ牛うし馬まををここりり。堂どうハハ舟ふねをを覆くわ
 してして。動うごままれれババ人ひとをを由ゆ取とるる。漁いそ翁おきなららままをを捕とるる。船ふねのの中ちゆう
 陽やう睡すいとと。ららままをを誘いざなひひババ。章魚たこ魚いそ窺うかがひひゆゆ。足あしをを擡たげげ。眩くらままららしし
 うち掛うちかるとと。睡ねままるる人ひと岸かた破やぶとと。舟ふねをを起おこしし。舵かじりりとと。そのその足あしをを砍きと
 奔はしし。船ふねをを漕こ退たいとと。速はや又また外あはれれぬぬ。そのその危あやししとと。生せい死し存ぞん古このの。
 瞬まのの間あひだありあり。そのその章魚たこのの足あしをを。魚屋いそやのの簷のゑにに掛かりり。をを見みままババ。
 一ひと疋ふたのの帛ぬいをを垂たりり。かかとと。いといと長ながくく。地ちにに至いたるる。されされババそのその疔しよ
 をを腰こしととるる。のの。三さん日にちありあり。くくるる海うみ堀ほりががいいのの。嘗かつて同どう筑ちく紫しのの山やま中ちゆうありあり。
 そのその形かたち三さん四し尺せきよりより。丈ぶち余あまにに至いたるる。澤さわ蟹かにありあり。又またそのその蟹かにをを打うち潰つぶしし。腦のうをを



大船の
引船の
仲元
大船の
足
別



引船の
仲元
大船の
足
別

大船の
引船の
仲元
大船の
足
別

吸ふ蚯蚓ありとぞ。此種阿也太理が蕉門 大山巨海の中。いづきの物と
 してあそむらん。莊子は所謂北冥の鯉魚。その形幾千里あるを
 みる。と見えざる由赤煙が。かむくの章魚ハ。ええと怪む。是れ
 ほど物類もる。又衆皆耳を側て。當下蟻王の骸又著る。章
 魚の足を引放て。それをええ。長サ六尺。又あまうて。疣の大は。采五六
 升を納る。瓢の玉。その間又若生く。疣の内。魚海蘆もど。
 夥あり。章魚ハ物をそり。瘡をりく。おづそれを吸ふ。といふ。は。足
 ハ彼が胃ふ。こそきく。る。向ら返り。つ。見る。後。の。隻。袖。を。握。り。ら。う
 腕。疣。の内。又。あり。たり。る。牙。と。あ。ふ。り。り。く。さ。じ。と。數。出。し。と。え。る。よ。そ。の
 袖。の。長。か。る。る。後。の。き。る。と。ど。ど。く。鶴。の。前。の。袷。又。似。たり。乞。松。り。る
 掌。の。ら。ひ。さ。え。ハ。女。の。統。る。と。り。さ。し。ハ。鶴。の。前。由。安。良。子。由。入。水。と。く。

この大章魚の腹を肥えたる。あそむ。と。む。り。よ。呆。ま。或。ひ。て。忙。れ
 たり。徳壽丸も長戚の候。をり。を。拭。ひ。ぬ。ぐ。潮。寄。り。隻。袖。と。
 共。又。袷。を。絞。り。つ。い。の。後。前。の。祀。念。り。と。見。ま。は。め。く。わ。か。り。す。と。
 幸。ら。む。と。す。く。月。由。日。由。照。り。し。め。ぬ。世。あり。あ。れ。は。又。墓。る。く。本
 身のむか。と。往。方。遠。と。あ。ひ。か。夏。若。の中。又。育。立。人。ハ。少。れ。ど。も。恰。割。く。
 備。の。人。子。使。ま。し。と。く。え。も。口。説。と。泣。沈。と。舟。笠。の上。又。輓。轉。由。い。ぬ。が。り
 る。程。又。般。と。す。や。豊。前。の。門。司。不。著。り。か。蟻。王。ハ。徳。壽。丸。を。こ。ま。ま。く。
 又。慰。く。その。日。ハ。肥。後。の。封。疆。又。入。く。宿。を。授。め。薩。摩。に。と。う。て。由。く。後
 又。蟻。王。ハ。山。本。郡。戸。次。の。西。る。山。寺。又。そ。れ。老。僧。の。在。住。り。あ。は。は
 を。少。し。か。徳。壽。丸。又。お。じ。と。め。く。か。の。山。寺。又。指。件。の。腕。を。葬。り。鶴。の
 前。の。隻。袖。を。埋。め。塔。婆。を。建。ん。と。り。ぬ。又。蟻。王。の。祀。念。る。ん。は。と。い。と。惜。ま。

後賢卷之四

二十一

放ちのむ。老僧も又強くそれをよめむ。遂に二基の塔婆を建てる。鶴
 の前を福壽海に量大姉と法号し。安良子を到岸慈航信女と
 法号し。叮嚀も回向し。されば蜨王が蛸の尻を破る。妻の腕
 を破る。正後二日。好子のみの。彼山を大蛸山と呼ぶ。今も
 飛り。飯田山と稱すとぞ。肥後國山本郡戸次の西に飯田といふ山
 のり。是るべし。不顯徳壽主後の彼山寺。西三日。返田といふ。
 長途の務勞を補ひ。大隅國竹ヶの湊。二十日の舟。風まると。
 高船も便船し。主後恙なく。鬼界島もを悪く。いとくと。それと
 旅衣。日よ。と。二月。洛を。西の海。蛸子。ねど。足弱の
 杖。憑ハ。蜨王の。あり。ええ。母。前。と。女。兄。前。の。亡。鬼。を
 さら。祭。る。七。月。の。中。院。も。も。久。風。の。風。も。さ。や。う。あ。て。藻。了。

住む虫の。れ。う。と。音。ふ。を。鳴。め。掛。ひ。ぬ。香。う。袖。よ。ひ。え。て。
 う。海。さ。り。と。由。と。頼。ひ。る。神。を。ひ。や。硫。黄。嶋。を。移。ひ。由。三。の。山。は
 擬。り。幣。献。り。康。頼。の。迹。政。り。け。り。さ。り。さ。り。薩。摩。方。の。總。名
 あり。國。を。隔。り。や。遠。さ。五。嶋。七。島。か。その。中。に。峯。より。硫。黄。の。燃
 の。れ。が。硫。黄。島。と。を。稱。昔。ハ。鬼。の。棲。た。れ。ハ。鬼。界。島。と。も。喚。は
 つ。嶋。あり。酋。長。も。あり。採。硫。磺。戸。二。三。十。軒。山。の。半。腹。を。横。し
 穿。り。の。中。に。庇。を。葺。け。れ。が。彼。上。代。の。穴。居。と。の。り。お。栖。を。い。ふ
 う。の。ん。げ。よ。の。嶋。の。分。野。を。洛。き。り。の。屑。も。の。り。を。い。ふ。
 東。の。漫。々。なる。蒼。海。あり。白。波。天。と。共。に。高。く。西。の。岨。と。う。る。未。九。止。を。
 巔。よ。り。煙。ハ。浅。間。も。不。及。浅。き。や。野。沢。も。東。く。霹。靂。の。お。ど
 ろ。お。ど。と。鳴。り。南。ハ。宇。留。麻。の。嶋。と。北。を。は。り。え。ん。と。香。の。

ところ跡由り。人間の哀情逆旅も受く。就中腸を断られ秋
 天張騫が僕疲まを玄奘が馬瘦より。八百日ゆく。濱の真砂のま
 りも。つらみ罪を召めれば。あは荒磯をめぐりて。稀なる
 ごとく。三三三とひひり。存命づくも雨も。この世の外
 の心ひぬ。今下よびのゆめ。あは骨も。拾りめ。主後
 竹屋の門方。立在。嵯王声をありま。喃く。この家。物ま。さん
 いぬる。年。洛より。さよ。捨る。ま。法勝寺の後寛僧都の恙。や
 在る。と。柴芭の彼方より。あは。同じ。主の。意を。あはら
 ん。彼。来。よ。これ。由。来。よ。と。彼。此。人。を。呼。集。め。羊。の。解。が。な。嶋。飛。あ。て。
 ち。い。ち。ち。相。暗。り。夫。度。は。德。壽。丸。を。引。捕。へ。押。し。雲。を。ひ。げ。ん。と。と。
 嵯王。を。見。り。大。に。怒。り。忽。ち。二。三。人。を。搦。廻。り。撲。地。と。投。退。つ。と。

ち。い。ち。ち。徳。壽。丸。を。抱。き。さ。り。ん。と。さ。る。ぬ。を。嶋。人。亦。腕。は。携。腰。ま。つ。つ。り。
 押。隔。り。も。著。む。嵯王。も。味。ら。ひ。て。え。何。な。し。彌。君。を。搦。ま。ん。
 と。い。さ。る。い。と。正。し。い。と。い。せ。も。あ。ら。ぬ。一。人。の。硫。磺。戸。圓。る。眼。を。見。り。と。光。け。て。
 ぶ。と。出。汝。ら。と。い。や。去。年。の。秋。平。家。の。侍。難。波。三。郎。経。房。と。い。ふ。人。
 吾。侪。は。物。賜。り。て。向。後。り。洛。より。俊。寛。が。親。族。と。い。ふ。人。は。
 速。よ。ら。ち。殺。せ。忽。ち。あ。ら。ぬ。後。日。その。う。ひ。え。さ。が。汝。亦。由。罪。あ。ら。ぬ。が。あ。ら。ぬ。
 と。宣。ひ。さ。あ。ら。ぬ。み。汝。達。が。摸。様。を。見。り。洛。の。人。は。何。と。か。加。之。後。寛。と
 や。ん。法。勝。寺。と。や。ん。の。恙。も。あ。ら。ぬ。を。問。ふ。が。難。波。の。仰。る。その。
 後。よ。ら。ち。殺。せ。と。い。ふ。難。波。も。幾。百。人。が。脅。力。を。め。め。し。勇。士。さ。り。と。も。此。界。の
 主。重。を。賞。よ。ら。つ。狂。り。狂。り。狂。り。が。主。重。を。殺。す。べ。し。と。い。ふ。嵯王。を。や。ん。
 いら。齒。を。切。り。と。い。ふ。主。を。捕。ま。り。つ。ら。も。あ。ら。ぬ。且。く。思。い。て。顔。

色を和らげ。嶋人よりマカハの面を笑ひ。然も誘ふ。怒も多し。その
 童を殺さとも。船の往來由稀る。嶋の難く縁由を告げ。其の
 勞し。功もなし。三人が中。只一人。救ふ。偏り。祝を尊び。する。ぐ
 と。く。來り。孝子の志を憐む。鬼畜も。お。か。り。る。ん。り。主。從
 り。ろ。と。も。あ。放。さ。る。め。を。兼。引。ぶ。ん。を。縛。く。その。男。の。童。を。殺。し。鬼
 かく。て。も。る。海。放。さ。る。と。ま。る。が。鬼。も。ゆ。れ。神。も。ゆ。れ。の。三尺。の。太。刀。を。り。
 立。地。は。塵。よ。せん。つ。ま。り。た。り。や。り。の。か。と。向。ま。の。光。を。あ。ひ。定。め。り。と。
 見。ゆ。り。の。不。理。な。れ。が。それ。彼。終。合。さ。る。と。ま。り。の。か。り。壯。使。の。剛。勇。之。
 彼。怒。ら。び。怒。狂。り。野。の。人。を。傷。む。と。ら。づ。づ。縛。ら。る。ん。と。い。ふ。と。幸
 づ。れ。と。せ。よ。と。く。獲。く。德。壽。丸。を。と。る。ら。し。いと。長。ち。う。る。様。の。夢。を。見。
 蟻。王。を。縛。め。門。の。楹。は。驚。か。る。り。德。壽。丸。の。形。勢。を。見。く。嶋。人。亦。は

對ひ。片。時。中。々。でも。お。母。を。見。え。蟻。王。を。つ。く。捕。ま。る。と。い。ふ。牙。を。と。り。川
 あ。く。の。又。の。在。処。を。あ。ら。う。が。と。ま。り。放。さ。ぬ。め。の。あ。ら。う。が。あ。ら。う。と。も。縛。ま。と。
 と。ま。ら。る。の。手。を。背。み。く。涙。さ。ら。づ。と。ま。り。を。蟻。王。の。獵。禽。の。難。は。鳴
 る。と。持。と。押。難。し。る。臉。を。あ。ら。う。德。壽。丸。は。ま。り。と。ま。る。其。く。縛。め
 ら。う。と。い。ふ。嶋。人。亦。は。愚。直。さ。る。幸。ひ。と。て。その。意。は。任。し。と。ら。う。と。い。ふ。
 獲。や。不。理。を。述。さ。る。ら。う。が。あ。ら。う。と。放。せ。し。の。嶋。山。を。只。と。り。お。ん。還。お
 め。ん。と。い。と。痛。ま。り。い。ひ。い。と。も。律。を。僧。都。の。お。ん。為。る。れ。蟻。王。が。あ。ら。を
 め。く。出。さ。る。と。い。ふ。の。だ。彼。此。と。ら。う。と。ま。り。の。あ。ら。う。と。追。つ。死。な。る。と。い。ふ。と。
 り。と。い。ふ。と。ま。り。が。德。壽。丸。を。見。改。め。と。い。ふ。途。あ。ら。う。と。結。ぶ。と。い。ふ。と。い。や。あ。ら。う。と。
 回。答。す。臘。塗。の。笠。由。雨。は。風。は。干。冗。さ。る。長。旅。は。あ。ら。う。と。熟。草。鞋。の。扱
 を。結。び。る。毎。と。曳。杖。由。短。く。あ。ら。う。秋。の。日。の。火。の。過。けり。居。る。年。を。十

後實卷之四

十七

仙傳卷之四



仙傳

仙傳

仙傳卷之四



名
人
嶋
王
捕
入

とふいど大人しく。あつりまげよ主出のくバ。新足の中を目送りつ又
んくつ主役が。羅漢松の樹蔭は隔らじ。春うらぬも拭ひぬぬ。
眼を霞ぞほぐさる。

第十一套

抱株索差とん

又藤巻
磯と呻ふ

徳壽麻呂がさ

水の面よりみらるべしゆめを。うらもあまをひま愛めりけり。
これ楚國の三國大夫が江潭に放たる。澤畔に吟ひ。旧羅のうらを
を猪り残る。まが別は負ぬらぬ嶋の巢守とありて果しす。誰を
松浦佐用媛が哀傷よりあまし。法勝寺の執持権僧都の俊寛
か。才のろる果を哀れ。成経康頼帰洛の後も。さよか命の惜れ
バ。妻や子よの入り。のり破より夜はのり。赤石も次磨も
外る。ぬ月ハ昔よのり。ぬど変えけり。面敷ハ憔悴枯槁と瘦衰

へ剃れが髪ハ肩よ。無量彼凌雲の額を書一夜の中よ千字文
を撰。苦むを数り。むかや啼山鳥。頭真白よりぬま。
ぬる日ぞる。仲津波潮と硫黄の気。まらも。髯いけめ。浪乃
針を樹より。頰骨高く。眼をう。小腹あ。ふの世うらる。餓鬼道
の苦難比んやうも。海松の工く。無量。裾を結び。肩よ被。腰
小海帯を纏ひ。嶋葺よ。ぬれ。雑魚ニツニツ半。掘。うら
めれ。来つる。磯畔。よ。く。び。腰。う。ら。伸。し。吻。と。息。う。た。ぬ。磯。野。松。の。株
よ。尻。を。切。け。ま。ら。徳。壽。遠。よ。これ。を。え。と。と。喃。と。と。忙。し。く。ひ。う。け。て
ま。う。つ。れ。さ。る。ん。ま。バ。形。ハ。人。よ。似。と。人。と。え。え。ぬ。相。貌。よ。物。の。み。づ。の。あ。と
ね。ど。も。め。れ。の。あ。も。る。同。ど。ん。又。の。在。知。を。ま。り。む。と。ん。と。あ。ひ。ろ。か
く。前。と。む。し。ひ。の。よ。嶋。人。物。と。らん。の。ま。り。法。勝。寺。の。執。持。俊。寛

岡又瘞^あと^{うま}の^ひ。や荒^あ磯^{いそ}又^ま捨^すと^と。鳥^うの^{くち}嘴^{くちばし}又^{また}亡^な體^{たい}を^を破^{やぶ}す
是^この^しの^りと^のり^とも。骨^{ほね}を^をば^つつ^て残^{のこ}さ^らん。骨^{ほね}と^と果^は敢^{かん}た^らず
爰^{こゝ}の^跡審^{しん}又^{また}告^つふ^ま。骨^{ほね}を^をば^つつ^て残^{のこ}さ^らん。骨^{ほね}と^と果^は敢^{かん}た^らず
不^ふ拭^ふひ^のめ^ど。い^さ入^い水^{すい}と^と失^しひ^のく^く。墳^{ふん}墓^ぼの^のめ^ど。骨^{ほね}を^をば^つつ^て残^{のこ}さ^らん。
洛^{らく}の^の畏^{おそ}又^{また}三^{さん}年^{ねん}が^が同^{どう}僧^{そう}都^との^のら^ら在^あり^し形^か勢^せ又^{また}入^いり^し。草^{くさ}木^きも^も稀^{まれ}
石^{いし}も^も物^{もの}落^おち^てく^く。元^{もと}來^{きた}り^しの^の鳥^{とり}の^の五^ご穀^{こく}も^も實^みら^ずと^と草^{くさ}木^きも^も稀^{まれ}
る^るり^り裏^{うら}く^くり^りの^の山^{やま}の^の猛^{もう}火^か吼^うる^るの^の仲^{なか}の^の勇^{ゆう}魚^{ぎょ}。白^{しろ}蛇^{へび}の^のり^り
嶽^{たけ}の^の浪^{なみ}更^{さら}に^にり^りの^の峯^ね又^{また}と^と煙^{けむり}赤^{あか}光^{ひかり}と^と日^ひの^の海^{うみ}と^と昇^あり^し
と^と昔^{むかし}天^{てん}黃^{わう}土^ど風^{ふう}雨^う時^{とき}り^り。か^か孤^こ嶋^{とう}又^{また}住^{すま}人^{ひと}の^のめ^めり^り
の^の生^{せい}活^{かつ}又^{また}山^{やま}又^{また}入^いり^し硫^い黄^{わう}を^を掘^ほり^し又^{また}生^{せい}る^るの^の海^{うみ}蓋^{がい}を^を捨^すり^し綱^あ引^ひ
の^の魚^{うい}の^の多^{おほ}る^ると^と死^しの^の漁^り人^{ひと}又^{また}手^てを^をあ^けり^し。一^{いち}ニ^にツ^つの^の魚^{うい}を^を得^える^る。

その日の餓^うを^を凌^{しの}ぎ^し。洛^{らく}の^のめ^めり^り何^{なに}知^しら^ず。定^{さだ}め^める^る世^よの^のと^とは^は
ま^まひ^ひ罪^{ざい}障^{しょう}ふ^ふく^くと^と三^{さん}人^{にん}が^が中^{なか}に^に。と^とり^り残^{のこ}の^の雪^{ゆき}の^の宿^{しゆく}消^{しょう}ゆ^ゆぬ^ぬる^る
馨^{かほ}蟬^{せみ}の^のめ^めり^り撫^なり^し子^こを^をる^るり^りと^と春^{はる}過^{すぎ}と^と秋^{あき}を^をる^るり^りの^の水^{みづ}の^の
つ^つは^は利^り未^み子^し妻^{つま}も^も子^こも^も新^{あらた}や^やと^とび^びん^んと^と呻^{うな}と^と。四^よ大^{だい}衰^{すい}へ^へ三^{さん}塊^{くわい}惑^{まど}ひ^ひ
後^{のち}の^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。
は^はの^の向^{むか}ひ^ひと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。
を^をある^る家^け隸^{れい}の^の一^{いち}人^{にん}二^に人^{にん}の^のら^らる^ると^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。
ぶ^ぶる^る。い^いと^と研^{けん}り^しと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。
嶋^{しま}ま^まの^の蟻^{あひ}王^{おう}と^とい^いの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。
族^{ぞく}ま^まの^のと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。
こ^ころ^ろ牙^が又^{また}代^{しろ}り^しと^と縛^{しば}り^し。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。と^とり^りの^のめ^めり^りの^の海^{うみ}の^のと^と。

伊實卷之四



徳壽九
荒夜子
又至

む亦痛やうに死にふ二月。少将判官りちと申す。こふ又居路一
あふと突えし経と母に前妙上らち揃ひく。新間遷しと入船
の鳥羽らち過ぐ宇治の里まぐ。出迎らるるひゆるく。又上歸
洛やうしやるとく。親引らるる経房か母にを入道相國へ進ぐ
せんらく挑む由憎し彼に成現々の仇人あり。思へる死心かりとるひ。
母にの忽地経房を只一刀に刺とめく。その牙由又は伏由ひ。己か
同胞の丹左傳つが情よらる。危を脱し。蟻王安良子に父抱
せし。せく。丹後らる。経の岬へとまるとる。闇を夜に悪棍に撞見つ。女
兒に前安良子と共に入水やまひん。赤間とやん。いふ浦
らう。門司へとく。渡る日ふ。秘へらちめけとる。恐しげる。鱈の足と蟻
王かいらと申。別らうと見え。は不也。幾あ由。安良子か。破ら。是と。腕

らとら。海しをその右年ふ。握めらるる女兒に前の鞋の袖あそめり
る。今叙ふ仰せし。五にの言路。す。又又。又進せよとく。妙
より。遍されし。消息ハ人よらと。ま。と。ふ。く。由。秘。身。を。故。衣
り。と。ま。え。れ。ど。ぬ。ら。の。世。又。竹。渚。の。鳥。の。迹。由。化。る。像。己。の。袖。を。こ。か
す。ふ。く。と。乾。め。ど。め。か。ま。と。の。え。よ。嶋。人。と。ら。口。鏡。く。鬘。の。内。は。秘
し。鶴。の。前。の。ろ。れ。玉。草。と。隻。袖。を。ぞ。り。物。を。え。く。俊。寛。ハ。泣
い。と。齒。頬。齧。締。ま。と。忍。び。く。ら。その。袖。の。雨。暗。間。ハ。絶。く。る。り。る。
徳。寿。丸。由。大。う。ら。の。意。中。は。猜。し。く。前。は。立。後。方。は。立。く。位。白。を。
そ。ま。め。う。と。や。ら。観。り。怪。し。や。え。牙。が。物。い。ひ。ご。ま。ハ。の。嶋。の。人。い
似。ど。り。口。が。又。あ。の。在。さ。む。や。ハ。才。の。と。別。是。牙。り。と。面。新。定。ふ
怒。ら。ね。ば。と。て。え。ら。く。尋。ね。ま。の。り。の。を。窺。く。し。え。は。羞。ひ。て。匿。ま。

下孝集卷
上經大臣
為遣唐使
時支那人
飲之不吉
藥身作彩
馬頭戴燈
馬頭戴燈

即名之為
燈臺鬼其
子獨宰相
雅支那尋
父燈臺鬼
流淚噬斷
指頭以血
書曰我
无日本華
東家汝是
一家同姓
人為子為
爺前世契
隔山隔海
愛情幸經
年流蓬
馬首愛月
馳思蘭菊
觀形破心
極作燈鬼
寄勤身

秋情あり。名告めんと推考志を。俊寛ハ忙ガハハハ。決とさるる。拵
拂ひ。その漫るる。み子宣ひそ。灰よ。俊寛僧都ハ先帝の寵臣
稚俊卿の孫なり。勅願の大刹法勝寺とやん。の執事なり。されバ
官位ハ權少僧都。上階。白河の坊京極の宿。丸麻谷の山荘。又
至るまで奇麗壯觀。世の人の耳目を驚し。十八箇。知の庄園を領
し。ゆり。とぞ。めれば。配知。又在。と。つ。か。牙の。ど。く。る。る。と。や。且。僧
都。ハ。年。の。齡。四。十。の。と。を。ま。く。も。過。ど。頂。の。毛。ハ。長。く。る。と。も。三。年。ぶ
程。又。雪。を。敷。く。ゆ。白。髪。の。ま。女。生。ん。と。る。と。これ。を。り。て。又。る。と。と。と。
疑。ぬ。ハ。牛。を。愛。し。と。牡丹。と。鹿。を。と。と。馬。と。よ。る。の。類。る。り。舊
の。心。屋。は。ま。ち。り。主人。又。勸。解。と。蟻。王。と。か。ん。を。救。ひ。出。し。洛。上
つ。く。亡。又。母。と。妨。の。菩提。を。吊。ひ。る。と。これ。は。ま。と。考。終。ハ。め。じ。と。く

と。つ。か。せ。バ。德。壽。頭。を。う。ち。掉。と。平。家。の。追。捕。忽。る。と。な。バ。洛。へ
と。と。と。帰。り。が。く。日。由。と。西。又。没。ぬ。且。ハ。舊。の。心。屋。へ
由。到。が。り。今。宵。一。夜。ハ。主。と。と。夏。夜。を。も。結。り。慰。む。言。結。款。と。來
り。ん。や。伴。ひ。ぬ。と。刺。し。宿。を。投。る。愛。著。の。ち。と。ち。よ。い。と。引
ま。つ。い。る。と。虫。間。の。苔。石。滿。明。候。を。聞。し。ぬ。ハ。外。又。進。と。る。物
ハ。ろ。れ。と。疲。勞。する。少年。を。と。り。ま。と。ん。由。不。便。る。り。秀。あ。へ。と
い。ひ。く。け。先。主。又。後。又。跟。子。ハ。親。と。り。由。あ。く。濱。の。砂。ゆ。く。ら。む
黄。昏。又。脚。下。圍。を。燈。臺。鬼。燈。の。大臣。を。異。國。に。送。り。彌。の。宰相
ガ。物。あ。ひ。刈。萱。法師。を。高。野。よ。と。ら。ぬ。石。堂。丸。ハ。悲。し。と。も。め。く
や。と。あ。け。え。と。哀。と。る。り。

後寬僧都鳴物語卷之四終

○表

大悲山の下

圓

あのかげり
らうとをる

○卷

附録俊寛共

十卷のちと

みんえうる
る

曲画法

者三逆子不

的先生のり

らんよん
る

一行

藝團へ配流

辨これい附録の
系とよ出少

小圖能者
よひ

あやま

りよん
る

ぐん
る

右残編四つも引つる常辰の

買中全部移す揃ひの
求了平山

戊辰十月吉日

江戸 通洞町

屋七藏

道二翁道話

六篇揃
八冊

算法指掌大成

一冊

鳩翁道話

十八冊

月令博物笥

十六冊

二十四孝繪抄

前後
二冊

鼎左秘録

一冊

陰騭文繪鈔

二冊

茶家醉古集

五冊

孝女操草

三冊

通俗武王軍談

二十冊

繪本楠公記

三篇
三十冊

通俗吳越軍談

十八冊

大坂書林

本町通心齋橋東八

河内屋真七板

